

羽ばたけ! TUT2020 報告書

4 系 (B) 3 年 氏名 宮里真珠

参加プログラム	フリープラン
研修先機関名	San Diego State University (SKYUS 経由)
プログラム名	Business & SDGs Program
研修内容	
<p>① 参加の目的や動機</p> <p>私がこのプログラムに参加した動機は、自分の夢の実現に必要な知識と能力を身に付けられると思ったからです。私の夢は、「日本の技術者として国際協力に貢献する」ことです。そのためには、以下の3点が必要になってくると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 高度な専門性(2) 語学力と異文化理解能力(3) 問題を理解し、解決するためのプロジェクトを企画し実行する能力 <p>現在、大学の講義や研究活動などで(1)、GAC の生活プログラムを通じて(2)を学んでいます。が(3)の能力は、どのように伸ばすことができるのか模索していました。私が今回参加した Business & SDGs Program では、国連が掲げている、世界共通の目標である SDGs と、企画を学ぶことができると考えました。</p> <p>また、語学力に関しても、留学生に日本語が通じるとしてしまおうと、少しでも英語で言葉に詰まったらすぐ日本語に逃げってしまう癖がつかまりました。スピーキング能力が下がり、自信がなくなり、英語を使わなくなるという悪循環になっていました。Business & SDGs Program では、ディスカッションの時間もあると聞き、英語を使う環境に身を置き、英語を強制的に使うことで、英語を使うことに抵抗をなくせると考えました。</p>	
<p>② 研修内容</p> <p>クラスは zoom 上で行われました。クラスメートは日本人のみで、各授業で先生が変わり、毎回サンディエゴ州立大学の学生ボランティアが数名参加していました。</p> <p>授業は主にグループディスカッションで各テーマについて話し合うという形で進められました。ディスカッションの前に5分でライティングを行ってグループで発表したり、グループでパワーポイントを作成して全体に発表したりすることもありました。グループディスカッション中は学生ボランティアが話し合いをリードしてくれました。先生も見回りに来てくれるので、話し合いに詰まることも少なかったです。以下に各授業の内容を示します。</p> <p><1日目：ビジネスイントロダクション></p> <p>内容：自己紹介、ビジネスを学ぶ上での基本的な単語、各ビジネスの流通チャネル</p> <p>自己紹介では、グループでウォームアップとして、簡単なビジネスのクイズを行いました。Product と service の違いは?や distribution ってなに?という基礎的な話から、最近</p>	

service を受けた場所はどこで、なんでそこを選んだの?など、消費者行動について考えるような質問もありました。

単語は、自分で意味を調べるのではなく、グループに分かれて流通についての説明文を音読し、文章中の単語とマッチする説明文を選ぶという形式でした。学生ボランティアの方が例などを説明してくれたので、単語の辞書的な意味だけでなく、実際のイメージとして覚えることができました。全体で答え合わせをして、またグループに戻り各ビジネスの流通チャネルについて学びました。これも、各ビジネス形態の流通チャネルの説明文を読んでから穴埋めをする形で行いました。

<2日目：ビジネスイントロダクション>

内容：単語クイズ、各流通チャネルの種類、ビジネスと流通チャネルの提案

最初に前回学んだ単語のクイズを行いました。Kahoot! というサービスを使用しました。

流通チャネルの種類は1日目と同じようにグループで説明文を読み、設問に答える形式で行いました。1人1つの流通チャネルを担当したので、皆に説明するために検索なども使い、深く理解することができました。その後、グループで1つビジネスを提案し、それに適切な流通チャネルを考え、PPT にまとめて発表しました。私たちの班は、オンラインでの洋服試着サイトを提案し、アプリを使用したサービスに適切な流通チャネルを考えました。

<3日目：フェアトレード>

内容：単語、フェアトレードと自由貿易、フェアトレードとSDGsの関係

まず、ウォームアップとして、グループで自由貿易や輸入・輸出について話し合いました。Jam board を使ってみんなの意見をまとめたりしました。その後、単語の意味を話し合い、全体で確認しました。

フェアトレードと自由貿易では、FAIR WORLD PROJECT が作成した動画視聴し、自由貿易の問題点とフェアトレードの現状についてポイントを整理しました。その後、フェアトレードを支援している企業や NGO・NPO を探し、その活動がどのようにSDGsの達成に貢献しているのかをまとめ、発表しました。

<4日目：ビジネスの形態>

内容：単語、ビジネス形態の種類

最初に、グループ内で起業や企業に関する簡単なディスカッションを行いました。全体で回答を共有した後、グループに戻って単語の意味について話し合いました。その後、メンバー1人1つビジネス形態を選び、それに関する説明文を読み、各利点と欠点をまとめました。

<5日目：ビジネスの形態>

内容：ビジネス形態の種類、

前回個人でまとめた各ビジネス形態の利点と欠点をグループ内で発表しました。Kahoot! を用いてビジネス形態についての理解度を確認しました。その後、2日目で提案したビジネスにはどのビジネス形態が適切かを考え、発表しました。

<6日目：ジェンダーイクオリティ>

内容：ジェンダー定義、職場における男女差別、ジェンダーイクオリティの現状

最初にグループで、ジェンダーに関してのディスカッションを行いました。どこでジェンダーを定義するか、職場におけるステレオタイプ、LGBT、同性婚などについて話し合いました。

職場における男女差別では、国連女性機関が作成した Equal Pay campaign の動画を視聴し、現在の賃金の問題点や、男女での賃金格差について話し合いました。その後全体で、ジェンダーイクオリティの現状についての文章を読み、設問について話し合いました。

<7日目：Going Green>

内容：単語、Going Green 度チェック、

初めに、環境やエコについてグループディスカッションを行いました。学生ボランティアの方から日本とは違う考えなどを教えてもらい、勉強になりました。Going Green 度チェックでは、私が意外と環境にやさしい生活を送っていると知ることができました。結果をグループで発表しあった際には、場合によってはエコより利便性やデザインを優先してしまうなど、環境に配慮した生活か利便性かのバランスが大切であると学びました。

<8日目：Going Green>

内容：バイオエナジー

サンディエゴ州立大学の学生が考案した食品廃棄物を用いたバイオガス発電をテーマに授業を行いました。学生のインタビューを聞き、問題に答えるリスニングや、自分の意見などを書くライティングの練習も行いました。答え合わせなどはグループで行い、様々な意見を聞くことができました。

<9日目：PRODUCT (RED)>

内容：PRODUCT (RED)、単語

PRODUCT (RED)の支援先や支援方法などが書かれた説明文を読み、問題に答えました。また、PRODUCT (RED)の商品を調べ、ターゲット層を考えるディスカッションも行いました。

<10日目：PRODUCT (RED)>

内容 募金、寄付について

募金や寄付についての批判文を読み、それについてどう考えるか話し合いました。また、NGO/NPO について調べ、どのような活動をしていて、どのような批判があるのかを調べ発表しました。

③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

今回のプログラムを通じて、SDGs の達成方法を明確にイメージすることができるようになり、自分の英語のスピーキングに自信ができました。また、今まで学んだことのないビジネスという分野で物事を考える経験を得ることができ、物事を判断したり考えたりするときの新しい視点を獲得することができました。その他にも、授業内で、今まで知らなかったアプリやサービス、団体を知ることができ、これからの学校生活やサークル活動に有効活用していきたいです。

応募当初設定した行動目標は、より講義形式な授業を想定していたので、プログラム参加中に少し変更を加えました。以下に変更点を示します。

応募当初の行動目標

- (1) 前日に明日学習するトピックに関する予習を行い、必ず3つ質問をする。
- (2) 新しい単語を10個覚え、それをディスカッション内で使用する。

参加して変更した行動目標

- (1) 資料を予習し、自分の意見をまとめて、ディスカッション中に必ず発言する。

→授業はディスカッションがメインで先生に直接質問をする時間はとられていなかった

め、ディスカッションで意見の交換を行い、講義の内容をより理解することに努めました。様々な立場からの意見を聞けることで、メリットとデメリットが明確になり、物事には様々な立場からの考えがあることを体感できました。

(2) 資料を予習し、単語の意味を調べておき、率先してクラスメートに教える。

→授業内で出てくる単語が予想以上に難しかったため、新しい単語を覚えるよりも、授業内で出てくる単語を理解することにしました。授業内では単語の意味について話し合う場が多く取られていたため、単語を予習しておくことでより多く発言できたと思います。

行動目標の達成度は、70%です。毎日予習を行うことはできましたが、率先して発言することや、英語を人前で話すことに抵抗があり、なかなか発言できないときもあったからです。特に単語は、辞書的な意味しか調べていない場合、日本語での意味は分かるが、英語でそれを説明するのが難しく、意味は分かっているのに発言できない悔しい場面もありました。

④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

今後の目標は、今回身に着けた自信を失わないように、英語を話す時間を増やすことです。前回の留学から帰ってきたときは、日本でなかなか英語を使用する時間がなく、英語を使用することに抵抗を感じるようになりました。そのため、今回は、意識的に英語を話す時間を作り、培った自信を無くさないように努力しようと思います。現在、GACの寮に住んでいるため、ハウスメイトと話すときは英語と決め、毎日少しでも英語を使用します。

課題は、自ら積極的に発言できるようになることです。プログラムを通じて自分の英語のスピーキング能力に自信が付き、英語を話すことへの抵抗は減らすことができましたが、率先して発言することはなかなかできないままでした。場数を踏むことが人前で意見を述べることに抵抗をなくするための有効な手段だと考えます。今後は様々な活動に参加し、意見を述べなければいけない場面に自分を追い込むことで率先して発言できるように努力します。

研修後の行動目標は以下の2つです。

(1) SDGsの達成に貢献できるプロジェクトを企画する

現在、一般社団法人Voice up JapanのTUT支部を立ち上げており、4月末～5月にかけてSDGsの5番「ジェンダー平等を実現しよう」の達成に向けたプロジェクトを企画しています。今回のプロジェクトは特にSTEM分野でのジェンダー平等を目指しています。企画に関して、TUTで改善が求められているSDGsの分野は何かということを見つける際や、問題の解決法を考える際に、プログラムで学んだSDGsの達成に貢献している企業や団体のプロジェクトが参考になりました。

(2) 海外で実際に英語を使用するインターンなどを行う

コロナ禍で実際に渡航できるかはわかりませんが、専門性と語学力・異文化理解能力を高めるために、海外で課題解決を行うインターンや大学院などでの研究を行いたいです。実務訓練では海外に渡航できないため、国内でJICAのインターンへの応募を考えています。また、大学院では協定校への研究留学にも応募したいです。

⑤ その他感想など

今回のプログラムを通じて、国際協力の現場で活躍するために必要な語学力と、問題を解決するためのプロジェクトを企画し実行する能力を身に着けることができましたと感じます。

語学力に関しては、アメリカ人の学生ボランティアやクラスメートのよりレベルの高い英語を聞き、勉強に対するモチベーションが上がりました。今回、目的としていたスピーキング能力への自信は、他人が英語を話しているのを聞くと、スムーズに英語を話せるようになりました。このことから、環境が大切であることを実感しました。④でも書いたように、自分で意識的に英語を使用する時間を作り、培った自信を失わず、より向上させていきたいです。

また、コロナが流行してから、オンライン留学に興味はありましたが、高額な費用や、身の回りに経験者がいなかったことから、なかなか参加できませんでした。しかし、はばたけの奨学金プログラムを知ったことで、高額な費用という壁がなくなりました。プログラムに関しても、大学の先生が提案して下さり、他にも参加者がいると知り、私もやってみようとする気になりました。実際に参加してみると、家にいながら英語で学べるというメリットはとて大きく、予想以上の力をつけることができましたと感じます。今回の経験で得た自信や力をより伸ばし、国際協力の現場で活躍できる人材になれるよう努力します。

素晴らしいプログラムに参加できたことに、深く感謝申し上げます。